

国会議事堂の秘密：国会議事堂中央広間には、憲政の功労者として三体の銅像があります。衆議院側には、板垣退助・大隈重信、参議院側には伊藤博文。よく見ると、その中のひとり板垣退助は、スラックスの右ポケットに手を入れたポーズで立っています。天皇陛下をお迎えする場所でもあり、当時そのポーズは不敬であるとの意見により作者である北村西望に変更依頼をした所、北村氏は「ポーズを変更するのであれば別の作者に依頼して欲しい」と主張。結局当初のポーズで飾られることになりました。是非皆さんも国会見学にお越しいただき、実際にご覧になってみて下さい。

与野党が逆転した歴史的な参議院選挙から早くも一年私にとって安倍前首相の突然の辞任で始まった議員生活は、民主党が提出した後期高齢者医療制度廃止法案の是非を巡る前代未聞の首相問責決議案の可決で一年が終わることになりました。

この一年、国会は緊迫した情勢の連続でしたが、与野党逆転した参議院での審議を通じて、年金記録問題、防衛省汚職、道路特定財源などこれまで隠され続けてきた諸問題を白日の下に晒すことが出来ました。また一か月だけとはいえガソリン税の暫定税率を廃止したことで、政権交代によって政治が変わる可能性を広く国民の皆さまに示すことができたものと考えています。

残念ながら政府与党は、衆議院における三分の二以上の議席の力を背景に税金の無駄遣いを放置したまま十年五十九兆円の道路特定財源、ガソリン税の暫定税率のいずれも再議決を行いました。

また後期高齢者医療制度についても、杜撰な制度設計による様々な制度上の不備が明らかになったことから、高齢者医療の切り捨てにつながるとして、国民が猛反発しているにも関わらず、制度の存続に固執し、民主党による後期高齢者医療制度廃止法案の衆議院における審議すら拒否して、素知らぬ顔を決め込んでいました。まさに政府与党は、国民の声を無視した政見運営を続けている訳であり、民意を無視し続ける政府与党の市政に強い憤りを感じるとともに、早期の解散総選挙の必要性を感じています。

今秋の臨時国会以降も与野党の衝突は必至の状況ですが、私も民主党を通じて国民が安心・安全に暮らせる日本を取り戻すために二年目の闘いに臨むべく、研鑽に努めてまいります。

皆さまのご指導・ご支援のほどをお願い致します。

## 第一六九回国会 『回顧録』

予算委員会 三月二十一日

### 案件：「平成二十年度一般会計予算案」

道路特定財源問題をとりあげ、「既に高度成長期以降整備された道路・橋梁等が耐用年数を迎え、補修等の更新に莫大な費用がかかることを示しているにも関わらず、十年五十九兆円にも及ぶ道路中期計画を成立させようとする政府の方針は、社会資本整備が増大し社会問題となる前に、造れるものを作ってしまうということなのか？将来に残す道路が「資産」ではなく「負債の資産」になってしまふ」と中期計画の見直しを強く訴えました。

本会議 四月十八日

### 案件：「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律案」

多くの中小零細企業が深刻な経営状況に追い込まれた理由は、政府が行き過ぎた市場原理に基づく経営政策を強引に導入し推進したことにあり、その結果、中小企業の体力は奪われ地方経済がこれほどまでに疲弊してしまつたことを指摘。アメリカの模倣と云うべき市場原理主義経済政策とは今こそ決別し、日本独自の価値観に基づき弱者を切り捨てることのない社会を目指すべきであると主張しました。



財政金融委員会 六月三日

### 案件：「金融商品取引法等の一部を改正する法律案」

日本の金融市場は、これまで国際市場を意識して制度整備を行ってきたにも関わらず国際市場における地位は相対的に低下しているが何故なのか？また今後、世界市場において日本市場はどのような影響を發揮することを目指すのか？また、課徴金制度のあり方が抑止力の観点から不十分であることや外国のいわゆるブラックマネーが日本に流入しやすい環境を作ってしまうことに懸念を示すと共に、ファイアオール規制の緩和について厳しい自己規律の適用と実効性の確保が必要であることを確認して質問を終えました。



### 同志「柳沢みつよし」の目録

当選來自殺対策に取組み、平成十八年には超党派の「自殺対策を考える議員有志の会」で自殺対策基本法を成立させました。以来、政官民が連携し取り組んできましたが、六月十九日の警察庁発表によると十年連続自殺者が三万人を超えました。関係省庁と民間団体の報告からは、対策の中心は啓発活動で原因の追究不足が浮き彫りになりました。その後、民間団体とともに「自殺実態白書」を岸田内閣大臣へ提出し、自殺は社会の縮図であり、内閣府を中心に関係省庁、民間団体と連携し数を減らす取組みを強く要請しました。(詳しくは柳沢みつよしHPで)